



2011 年度自己点検・評価報告書 (重点項目)

■重点項目

教育研究等環境

社会連携・社会貢献

昭和女子大学

本学の自己点検・評価実施体制について

昭和女子大学では、自己点検・評価実施委員会規程および自己点検・評価実施小委員会規程に基づいて、毎年自己点検・評価を実施している。

実施対象は大学部門の教員組織、事務組織すべてであるが、とくに毎年重点的に行うテーマ・部署を決めて自己点検・評価実施計画を策定し、そのテーマに基づいて自己点検・評価実施委員会で自己点検・評価を行い、その結果を公開することになっている。

評価基準は、(財)大学基準協会の評価基準に準拠している。

年度	重点的に実施する評価項目(部署)
2010 年度	■学生の受け入れ(アドミッション部、アドミッションセンター)
2011 年度	■教育研究等環境(副学長、図書館、事務センター) ■社会連携・社会貢献(学長室)
2012 年度	■学生支援(学生部、学生担当、キャリア支援部、キャリア担当)
2013 年度	■教員・教員組織(副学長、研究科、学部) ■教育内容・方法・成果(研究科、学部、教務部)
2014 年度	■事務組織(4センター、学長室、学園本部) ■財務(財務部) ■管理運営(学長室、総務部) ■内部質保証(学長室、FD推進委員会)
2015 年度	■全体プレ実施 (認証評価申請プレ)
2016 年度	■全体実施 (認証評価申請用)
2017 年度	☆認証評価申請

※ 各年度で実施した自己点検・評価の結果に基づく「改善の方策」について、次年度に検証を行う。

※ これとは別に、認証評価の結果、大学基準協会から指摘を受けた事項については別途検証を行うものとする。

目 次

2011 年度「教育研究等環境」	3
●教育研究等環境（担当：副学長）.....	3
●設備(担当：事務センター).....	7
●図書館(担当：図書館)	13
2011 年度「社会連携・社会貢献」	17
2010 年度「学生の受け入れ」改善報告	20

2011 年度「教育研究等環境」

●教育研究等環境（担当：副学長）

【到達目標】（数値や到達時期など具体的な計画）

教育理念に基づいた教育、および教員の研究活動が適切且つ十分に行える環境づくりを目指して、2011年度以降中長期的に、以下の事項を到達目標として重点的に取り組む。

- ・ 教室（PC教室を含む）、図書館、アメニティーおよび課外活動などの施設・設備において、学生の満足度を検証する。
- ・ 教員の研修機会を保障する制度を立案・策定する。
- ・ 実用的観点に立った、教員の各専門分野に適した研究室の在り方を討議する。この討議結果に基づいて研究室に関する内規を再検討し、研究室に関する研究環境の中長期的改善計画を立て、実施していく。
- ・ ティーチングアシスタントの活用を奨励し、教育の質の向上を図ると同時に、教員の研究専念時間の確保を支援する。

1.現状の説明(データ等に基づく客観的現況)

■教育研究等環境の整備に関する方針を明確に定めているか

(学生の学習および教員による教育研究環境整備に関する方針の明確化)

教育研究等環境の整備に関して、以下の方針を立てている：①本学の教育理念に基づいた教育が適切かつ十分に行えることを目的として、学生の学習環境に対する満足度を勘案しながら、環境整備委員会および視聴覚施設設備専門委員会が中心となり、大学事務センターと協働して計画・整備を進める。②大学教育の質の向上を目的として、教員は学術面で深化・成長し、適性に応じて力量を形成することができるよう、十分に能力を発揮して優れた成果を追及できる研究環境および研究体制を整備する。これらの方針は学内への周知には至っていないが、概ねの共通認識となっている。来年度は、部局長会を始め、教育会議などの機会に、方針と到達目標について報告し、学内教員に認識させるとともに、改善への意識付けを行っていく。

■教育研究等を支援する環境や条件は適切に整備されているか。

(教育課程の特徴、学生数、教育方法等に応じた施設・設備の整備。ティーチングアシスタント・リサーチアシスタント・技術スタッフなど教育研究支援体制の整備。教員の研究費・研究室および研究専念時間の確保)

- ・ 教育課程の特徴、学生数、教育方法等に応じた施設・設備の整備

期末に科目ごとに実施される授業改善アンケートのなかで、学生に教育環境についての要望を尋ねている。この要望は FD 推進委員会で集約・検討され、大学部局長会で報告される。部局長会での報告は、学内の施設・環境を計画する環境整備委員会の委員、学長（理事）、副学長（理事）も聞き、大学全体の整備計画に反映される。2011 年度より、幼稚園校舎の建て替えの計画が進められており、大学で要望が多かった教室の増設もこの計画に含まれている。また、視聴覚施設設備専門委員会は視聴覚施設に関する要望を検討し、教室の視聴覚設備の設置を計画的に進めている。

・ティーチングアシスタント・リサーチアシスタント・技術スタッフなど教育研究支援体制の整備

ティーチングアシスタント（TA）は、必要に応じて各学科で、主として学内の大学院生を雇用している。TA は主に授業補助を行っており、授業の円滑な進行と教育効果の向上に役立っている。また、基礎教育研究センターで雇用されている TA は学部生も多く、授業の基礎となる学習や SPI 試験対策などを授業外で学習したい学生に支援を行っている。

リサーチアシスタント（RA）および技術スタッフについては、研究支援機器センターの助教（1 名）が、教員の同センターの分析機器の使用をサポートしている。また、教育支援センターの研究担当職員は、補助金申請時の書類準備の部分的な補助および補助金の管理においてサポートを行っている。しかし、これ以外の RA および技術スタッフは大学としては整備していない。

・教員の研究専念時間の確保

春、夏、冬長期休暇以外の期間の教員の週間勤務時間は合計 40 時間であるが、学内の勤務時間は 28 時間の下限を設定している。残りの 12 時間の勤務時間は学外、学内に縛られず勤務できるため研究活動にあてることが可能である。（資料：大学教員の勤務規程）

サバティカル制度については旧制度を廃止し新案を検討してきたが、2011 年度に全教員が利用できる内容となった新サバティカル制度が決定された。（資料：大学教員のサバティカル研修に関する規程）

18 歳人口の減少など、大学をめぐる厳しい社会情勢から、やむを得ないことでもあるが、授業や学生の指導の他に学科の運営や学生募集活動などの業務が近年増加する傾向にある。

・教員の研究費

2011 年度の教員の研究費総額（大学・短大）は、218 名で 67,455,000 円となっている。そのうち、前年度の研究業績有りとして認められ 33 万円を支給された者が 169 名となっている。また、学内の競争的補助金である学長裁量研究費は、2011 年度は 33 名が採択され、総額 12,087,000 円が支給されている。（資料：専任教員の研究費、学内共同研究費、学長裁量研

究費)

2011年度の科学研究費補助金(以下、科研費と略)の総額は、46,970,000円、その他の学外研究費は21,839,500円であった。2010年度からは、科研費申請に関する勉強会を開催し申請への支援を行っているほか、科研費不採択者に対し次年度の申請に向けて研究活動を支援する目的で研究費を支給している。

その他の学外研究費(委託研究費及び共同研究費等)については、学外のホームページに受入の手順及び申請フォーム等を掲載し学外研究費の受入を推進している。(資料:学外からの研究費)

・研究室

毎年、教員研究室の個室化を進めるための検討を行っているが、本年度の教授の個室率は94%であった(昨年度は91%)。現在個室を持たない教授は、演習指導ができる広い面積の部屋を使っている。常勤教員の個室率は72%(昨年度は66%)である。(資料:研究室一覧)

■研究倫理を遵守するために必要な措置をとっているか。

(研究倫理に関する学内規程の整備状況。研究倫理に関する学内審査機関の設置・運営の適切性)

・学内規定の整備状況、学内審査機関の設置

学内教員及び学外研究者からなる倫理委員会及び動物実験委員会を設置しており、審査を必要とする実験・研究は規程に基づいた審査を受けている。倫理委員会規程においては、本学の研究者がヒトを対象とした生物医学的研究または疫学的研究を実施する際に、倫理委員会の審査を受けることが規定されている。また、動物実験委員会規程においては、科学的観点及び動物福祉の観点並びに実験等を行う教職員及び学生等の安全確保の観点から動物実験の実施方法を定めており、動物実験等を行う際に動物実験委員会の審査を受けることが規定されている。

その他、昭和女子大学組換えDNA実験安全管理規程を定め、本学における組換えDNA実験の安全な実施を確保するために、学内教員からなる昭和女子大学組換えDNA実験安全委員会を設置し、必要に応じて審査する体制を整備している。

(資料:倫理委員会規程、動物実験委員会規程、昭和女子大学組換えDNA実験安全管理規程)

・学内審査機関の運営の適切性

倫理委員会は、2011年度中に4回委員会が開催され、15件の申請中、2件の申請取り消しがあり、そのほかは全て承認されている。また、過去に委員会承認を受け、実験が終了した研究については、委員会経由で学長に報告書を提出している。

動物実験委員会は、2011年度中は2回開催され、4件の申請があり全て承認されている。

2011年12月には学外から講師を招き、動物実験を行う教員及び大学院生を対象にした教育訓練講習会を開催したほか、自己点検・評価報告及び現況調査を実施し学長に報告した。また、本学ホームページに動物実験の申請件数及び承認状況を掲載した。

昭和女子大学組換えDNA実験安全委員会は、2011年度は申請がなく開催されなかった。
(資料：2011年度倫理委員会審査一覧)

各委員会の委員は、委員会開催前に予め申請書類を点検し、必要な事項について申請者と委員間において質疑応答を行ったうえで適切な審査を行い学長に報告している。

2.点検・評価(点検は現状と到達目標の照合、評価とは現状に対するデータに基づいた評価)

①効果が上がっている事項

・科研費の過去3年間の採択率(大学のみ)は2009年度14.9%、2010年度20.7%、2011年度29.2%と大きく上昇しており、科研費申請への支援が高い成果を上げている。

(資料：科学研究費の採択状況)

- ・教員の研修機会を保障するものとしてサバティカル制度を策定した。
- ・研究室については、個室化を進めるという共通認識で徐々に改善されている。

②改善すべき事項

- ・教育研究等環境の整備における方針はまだ学内に明示されていない。
- ・研究室に関する規定の見直しはまだなされていない。
- ・昨今、心理学など、分野によっては学術論文においても倫理委員会の承認がない場合は受け付けてもらえないようになりつつある状況から、本学においても倫理委員会の審査対象として心理学的研究及び社会調査等を含めるよう規程の改訂が必要である。
- ・学園内で教職員の業務の改善を検討する会が組織され、改善に向けていくつかの提案が実施されてきたが、教員の業務についての効率化はあまり進展していない。

3.将来に向けた発展方策(実効性のある計画や手順)

①効果が上がっている事項

・科研費の申請件数の増加を目指し新規申請者を増やすための方策を検討する。若手研究者(助教)を主なターゲットとして夏季休暇前の科研費勉強会への参加を促す。

②改善すべき事項

- ・教育研究等環境の整備における方針を学内に明示する。
- ・学科長および学部長間で、教員の業務全般に関してその必要性和効率化の観点から改善策を検討を始める。
- ・倫理委員会の審査対象に心理学的研究及び社会調査等を含めるよう規定の改訂に向けて検討する。

--

4. 評定

A

以下の基準に基づいて、各部署の所属長が自己評定を行う(大学基準協会による評定基準)

[注] 評定の欄には、以下の基準を目安に評定を付してください。

- S: 方針に基づいた活動が行われ、理念・目的・教育目標の達成度が極めて高い。
- A: 概ね、方針に基づいた活動が行われ、理念・目的・教育目標もほぼ達成されている。
- B: 方針に基づいた活動や目的・教育目標の達成がやや不十分である。
- C: 方針に基づいた活動や理念・目的・教育目標の達成が不十分であり、改善すべき点が多い。

●設備(担当：事務センター)

【到達目標】(数値や到達時期など具体的な計画)

情報技術を活用した教育を支援するため、適切な情報処理機器を整備する。教育の用に供する視聴覚施設設備を整備する。大学周辺と環境面で共存・共栄する体制を整備する。施設・設備等を維持・管理し、衛生・安全を確保するための施設総管理体制を整備する。キャンパス・アメニティを整備・充実させ、快適な学生生活を確保する。障がい者のためのバリアフリー化を進める。
--

1. 現状の説明(データ等に基づく客観的現況)

<p>■教育研究等環境の整備に関する方針を明確に定めているか (校地・校舎・施設・設備に係る大学の計画) 校地・校舎に関しては、長期修繕計画に基づき教育研究活動が円滑に行えるようにする。学部・学科構成の変更が計画されているときは、学長室を中心に検討をする。</p>									
<p>■十分な校地・校舎および施設・設備を整備しているか。 (校地・校舎等の整備状況とキャンパスアメニティの形成。校地・校舎・施設・設備の維持、管理、安全・衛生の確保) ①校地面積 昭和女子大学の保有する校地は、太子堂中心校地・大井校地計 173,676.19 m²である。</p> <p>表 校地面積</p> <table border="1"><thead><tr><th></th><th>所在地</th><th>面積 (m²)</th></tr></thead><tbody><tr><td>太子堂中心校地</td><td>東京都世田谷区太子堂 1-3 他</td><td>70,840.07</td></tr><tr><td>大井校地</td><td>神奈川県足柄上郡大井町山田字道津 1868-イ他</td><td>102,836.12</td></tr></tbody></table>		所在地	面積 (m ²)	太子堂中心校地	東京都世田谷区太子堂 1-3 他	70,840.07	大井校地	神奈川県足柄上郡大井町山田字道津 1868-イ他	102,836.12
	所在地	面積 (m ²)							
太子堂中心校地	東京都世田谷区太子堂 1-3 他	70,840.07							
大井校地	神奈川県足柄上郡大井町山田字道津 1868-イ他	102,836.12							

合計	173,676.19
----	------------

②校舎面積

昭和女子大学の所有する校舎は、大学1号館、大学2号館、大学2号館東棟、大学3号館、大学4号館、大学5号館、研究館、80年館、学園本部館であり、この他学園共通建物として、人見記念講堂、体育館、コスモス館、研修学寮（東明学林）など、延床総面積は、86,182.38㎡である。学生・教職員の移動に支障はない。

この他、附属校施設である新体育館、望秀海浜学寮（千葉県館山市）、学園の厚生施設である会津キャンプ村（福島県猪苗代町）も使用可能である。なお、大井校地では教育課程上の科目は開設されておらず、学寮研修時に授業を実施しており、そこへの移動は、教員も含めて貸切バスを利用している。

③コンピュータ教室の整備状況

学園全体では Windows PC を常勤教職員（派遣職員も含む）に一人1台ずつ配布し、各部署には複合機とモノクロプリンターを設置している。大学の授業用として Windows PC を80年館6階コンピュータ教室に255台、大学1号館5階にコンピュータ教室29台、コンピュータ教室としても使用できる CALL 教室には47台、大学5号館1階には7台設置している。印刷に関しては、学生がICカード学生証をオンデマンドプリント端末にタッチし、印刷ジョブを選択して印刷を開始する仕組みとなっている。80年館6階では授業用のサーバを運用している。さらに、各学科では独自のコンピュータ室を設置しているところもある。

表. コンピュータ教室一覧

教室名		パソコン台数	OS	機種
コンピュータ教室A	8N6L35	29台	Windows7	HP 8000Elite
コンピュータ教室B	8N6L34	29台	Windows7	HP 8000Elite
コンピュータ教室C	8N6L33	29台	Windows-XP	HP dc5800
コンピュータ教室D	8N6L32	29台	Windows-XP	HP dc5800
コンピュータ教室E	8N6L06	29台	Windows-XP	HP dc5700
コンピュータ教室F	8N6L05	29台	Windows-XP	HP dc5700
コンピュータ教室G	8N6L04	29台	Windows-XP	HP dc5700
コンピュータ教室H	8N6L03	38台	Windows7	HP 8000Elite
コンピュータ教室J	8N6M31B	14台	Windows-XP	HP dc5700 Lenovo Thinkcentre
D1 CALL 教室	D15L31	47台	Windows-XP	HP dc7900
D1 コンピュータ教室	D15L32	29台	Windows-XP	HP dc7900

D5 コンピュータ教室	D51L31	7台	Windows-XP	Lenovo Thinkcentre
心理学科コンピュータ教室	D15S06	27台	Windows-XP Windows7	HP dx7500 SONY VAI0 HP 8200Elite
管理栄養学科コンピュータ教室	D21S22	10台	Windows-XP	Lenovo thinkcentre
	D24L06	10台	Windows-XP	Lenovo Thinkcentre
文化創造学科	D34S06	10台	Windows-XP	DELL Dimension DELL GX260 DELL GX270 HP dx7400

④ 視聴覚機器の整備状況

視聴覚教室とは別に、2005(平成 17)年度から継続的に、合同教室、普通教室及び演習室等に順次、プロジェクター、スクリーン、DVD、VIDEO、情報コンセントを整備している。これにより、整備された普通教室等で視聴覚教材の効果的活用が可能となっている。

図表. 視聴覚施設（視聴覚教室、コンピュータ教室は除く）

	プロジェクター、スクリーン等（注1）の整備教室数	TVモニター（注2）の□備 教室数
大学1号館	38	10
大学2号館	6	5
大学3号館	16	6
大□4号館	2	2
大学5号館	5	2
大学2号館東棟	4	2
80年館	9	4
研究館	7	2
合計	87	33

(注1)整備内容・・・プロジェクター、スクリーン、DVD、VIDEO、マイク、情報コンセント

(注2)整備内容・・・TVモニター、VIDEO

⑤ ネットワーク設備の整備状況

・学内ネットワークは、1998年から段階的に整備を行ってきた。いずれも有線LANの設備であった。

- ・近年、無線 LAN による接続要請が高まってきたため、2009 年から授業等で使用する教室を中心に、大学 3 号館 1 階、2 階、大学 1 号館 2 階、学生ホール、図書館、学生食堂「ソフィア」、コスモス館（学生会館）へ無線 LAN のアクセスポイントを設置した。学生はポータルサイト「UP SHOWA」から申込を行うことで無線 LAN の利用ができる。
- ・現在、本学では外部接続先として SINET に 100Mbps で接続している。
- ・学内ネットワークについては、教員系、学生系、教室系、コンピュータ教室系、職員系等に体系的に分け運用されている。

⑥バリアフリー対応状況

- ・障がい者のためのバリアフリー化として、各建物において、自動ドア、スロープ、エレベーター、「みんなのトイレ」の整備の対応をしている。

⑦組織・管理体制

- ・校舎・教室等の施設・設備等は、事務センターの専任事務職員 3 名で統括的に維持管理業務を行っている。施設・設備の保守維持管理、清掃管理、警備業務、樹木剪定処理等については、施設総合管理として専門業者へ外部委託し、衛生・安全・防犯・防災の確保に努めている。いずれも業務仕様書を定め、年間計画のもと、法令に基づく点検、報告等を遵守し、確実に履行するように指導監督、監視している。
- ・敷地内の学生の安全確保のため、保安・警備に関する業務は、常駐警備（有人警備・機械警備）のもと建物設備の火災・盗難防止等の安全管理、教職員の出入構管理及び車両駐車管理、外来者の車両入構チェック、並びに受付・応対等多岐にわたって、24 時間の監視・安全確保に努めている。
- ・電気・空調・給排水・防災・エレベーター等の機械設備についても、法令に基づく日常点検、定期点検を専門業者に全て委託している。
- ・定期清掃、特別清掃等の衛生面も業務仕様書を定め、年間計画のもと、専門業者に委託している。
- ・維持管理業務における予防保全の一貫として、利用、稼働に伴う維持管理経費（光熱水費等）は、支出状況を把握し、予算状況を管理している。
- ・学生のコンピュータに関する相談対応窓口として、80 年館 6F にコンピュータ事務室を設け、専任職員 3 名・派遣職員 2 名・専門の委託業者より派遣 S E 2 名を配置し、コンピュータ教室の運営、学生サポート、及び学内 I T 関係全般の運営を行っている。

■教育研究等を支援する環境や条件は適切に整備されているか。

(教育課程の特徴、学生数、教育方法等に応じた施設・設備の整備)

- ・施設・設備の整備については、各学部の特性を考慮し、学内全体の状況とのバランスを考えながら、大学の共用施設を有効に活用しつつ整備をしている。
- ・施設・設備の管理体制については、各学部と分担をして維持管理を行っている。

2.点検・評価(点検は現状と到達目標の照合、評価とは現状に対するデータに基づいた評価)

【効果が上がっている事項】

- ・校地、校舎とも設置基準を満たしており、施設設備は適切である。
- ・コンピュータ教室隣接のコンピュータ事務室に担当職員を配置し、常時、学生へのきめ細かな教育支援が可能となっている。
- ・コンピュータ教室における印刷について、2011年度にオンデマンドプリントシステムを導入したことにより、紙詰まりや誤印刷などの印刷時トラブルの減少、自習利便性および施設満足度の向上を図ることができた。
- ・コンピュータ教室の利用時間を長くして欲しいという要望に対し、2011年度から試験期間前に利用時間を延長し利便性を高めた。
- ・2011年度、普通教室への視聴覚機器整備は13教室行い、その結果整備教室数は74教室から87教室となった。
- ・施設・設備等の維持管理業務は、全て事務センターが統括し、委託業者の業務履行状況について指導監督しながら進めている。現在まで、特に大きな問題はなく、常に安全かつ良好な状態で設備を提供できている。

【改善すべき事項】

- ・情報環境への要望は益々増大傾向にあり、特に無線LANの設置とコンピュータ教室の増加の要請が高い。
- ・2012年度に整備予定の無線LAN設置を待ってられない研究室では独自に無線LANアクセスポイントを設置する傾向がある。これに伴う情報システム担当のサポート量の増加、SSIDの乱立が目立つようになってきた。情報システム担当で設置した無線LANへの接続はMacアドレスを登録し、認証画面でIDとパスワードを入力しないと接続できない仕組みになっているので、セキュリティ面では有効であるが、無線LAN申し込み手続きがWeb上からなので、個人所有PCにウィルス対策ソフトが導入されているかをチェック出来ない。
- ・ネットワークの対外接続に関し、SINET1回線のみなので、回線トラブル等があった場合、復旧に時間がかかる可能性がある。

- ・すべての普通教室に、視聴覚機器が整備されているわけではないので、パソコンなど視聴覚機材の利用を希望した場合、不足してしまう。
- ・従来、機器を導入する際、価格等を優先したため環境面についての配慮が不足している部分があった。東日本大震災後の原発事故に端を発した電力問題に対応すべく今後機器等を導入する場合は環境面にも配慮し、機器を導入していく。

3.将来に向けた発展方策(実効性のある計画や手順)

- ・情報セキュリティについては、情報セキュリティポリシーを明確にしていきたい。新任者研修での案内や学生ポータルサイトへの掲示をして浸透させていきたい。ネットワークの冗長化や高速化に関しては予算を計上し次年度以降実現していく。
- ・授業が視聴覚機器整備済の普通教室に固定されないように、すべての普通教室への視聴覚機器整備を継続する。
- ・日常の維持管理や有効な改善、改修が定期的に行われており、施設・設備等を維持・管理する責任体制は十分確立されているので、引続き、学生の施設・設備等利用の利便性を考慮しながら、安全で快適なキャンパス環境、及び教育・研究環境の整備を進めていく。
- ・施設・設備の保守維持管理は、常に正常に機能し、かつ関係法規に定める基準に適合した良好な状況を維持するため、さらに、適切な仕様の見直し検討を継続する。清掃業務にあっても、常に教育機関に相応しい美的環境を保持し、環境衛生基準に適合した状況を維持するため、さらなる適切な仕様の見直し検討を進める。
- ・施設・設備に関する改善への要望は、厳しい財政状況の中、教育研究面で高い効果が期待できる事業を優先し、今後はより一層の固定費削減の方策を探りつつ、合理的で効果の高い委託仕様となるよう検討していく。

4.評定

A

以下の基準に基づいて、各部署の所属長が自己評定を行う(大学基準協会による評定基準)

[注] 評定の欄には、以下の基準を目安に評定を付してください。

- S: 方針に基づいた活動が行われ、理念・目的・教育目標の達成度が極めて高い。
- A: 概ね、方針に基づいた活動が行われ、理念・目的・教育目標もほぼ達成されている。
- B: 方針に基づいた活動や目的・教育目標の達成がやや不十分である。
- C: 方針に基づいた活動や理念・目的・教育目標の達成が不十分であり、改善すべき点が多い。

●図書館(担当：図書館)

【到達目標】(数値や到達時期など具体的な計画)

本学所蔵の貴重資料(桜山文庫等)のデータ入力と並行し、原資料の保存と公開のためのデジタル化に着手する。保存方法、業者の選定などを先行機関から学び、本学図書館の公開方針を策定し、それに基づいたデジタル化元年とする。具体的には年度予算内で明治期を中心とした錦絵(倭錦春乃寿/揚州周延筆 他 約50点)の画像撮影・データ処理を行ない、ネット公開へつなげる。

恒常的な読書習慣にポイントを置いた企画(学生選書ツアー・秋桜祭イベント・よむよむフェスタ・読書ラリー)や図書館利用ガイダンスに加え、教員による効果的な課題学習の相乗効果により、学生1人当たりの年間平均貸出冊数が念願の2ケタ10.3冊(前年8.7冊)となった。図書館への動線を維持し、学生の要望に時をはずさない対応と更なる教員との連携で、平均貸出冊数の目標を11冊とする。

1.現状の説明(データ等に基づく客観的現況)

■教育研究等環境の整備に関する方針を明確に定めているか

(学生の学習および教員による教育研究環境整備の方針の明確化)

- ・大学の教育理念および、学科プログラムに対応した図書館の「収書方針」と「サービス方針」は明文化されており、それに沿った運営に努めている。また、研究支援並びにカリキュラムの個々の授業支援として、「教員推薦図書」「学習用図書」制度を設け、並行して学生による「学生推薦図書」の体制を整えている。

資料1. 図書館収書基準

資料2. 図書館サービス方針

■図書館・学術情報サービスは十分に機能しているか

(図書、学術雑誌、電子情報等の整備状況とその適切性。図書館の規模、司書の資格等の専門能力を有する職員の配置、開館時間・閲覧室・情報検索設備などの利用環境。国内外の教育研究機関との学術情報相互提供システムの整備)

- ・2011年度の新規受入図書冊数は2月末現在で8,902冊、蔵書数として48万冊を超えた。雑誌の総タイトル数は14,757誌、アクセス可能な雑誌タイトル数は12,585となっている。
- ・80年館の地上3階、地下2階部分 延 7297.3 m²を図書館とし、教員(館長、副館長)を除く正規職員9人、派遣職員5人で業務にあたっている(カウンター業務の委託スタ

ップ除く)。システム専任職等を除く 12 名は司書資格を有し、情報サービス部門、資料管理部門で連携を図り、利用者サービスに努めている。

- ・開館時間は、授業開講期間の月曜～金曜は 8 時 45 分から 21 時 30 分、土曜日は 18 時 30 分までとなっており、7 講時(19:45～21:15)の授業後にも貸出手続きが可能である。
- ・開架室の閲覧座席数は 423 席だが、他に閲覧目的に利用できる椅子（グループ研究室、ブラウジングコーナー、学習用図書コーナー、書架脇に設置）が 80 席あり、学生の収容定員に対する閲覧座席数比率は 11.4%と試験期間でも充分に対応できる。
- ・自動貸出返却装置を導入（2009 年）、検索設備については 3 階情報検索コーナー（26 台）の端末に国内外の情報を入手できる環境を整え、4 階には OPAC 検索用端末 2 台の他、検索ガイダンス等で使用する 7 台を設置している。2011 年には無線 LAN の設備を導入、開架室内はどこでも持参したパソコンでインターネットを利用することができる。また、DVD、ビデオ、CD、カセットテープ等を利用できる視聴覚コーナーには、2 人掛け 9 台と 4 人掛け 1 台のブースと MD やカセット専用のコーナー 6 席がある。

2.点検・評価(点検は現状と到達目標の照合、評価とは現状に対するデータに基づいた評価)

①効果が上がっている事項

- ・本学所蔵の貴重資料の 1 つである桜山文庫（6,895 冊）のデータ入力終了した。今まで冊子或いはカード目録でしか確認できなかったが、図書館システム Limedio にデータ登録されたことにより書誌に含まれるキーワードからも資料の特定ができる。
- ・本学図書館のデジタル化初年として、貴重図書室に保管していた錦絵 111 点（255 枚）の画像処理が終了した。資料保存の点から、通常の閲覧に画像提供できるのは大きなメリットである。（絵の色見、摺り具合など、より専門的な調査については従来どおり、館長許可を得て原本閲覧の対応をする。）引き続き来年度も予算計上し、図書館 HP での一般公開に向けて準備する。
- ・図書館として年間通じて行なっている各種企画（学生選書ツアー・秋桜祭イベント・よむよむフェスタ・読書ラリー等）を順次発展させ、ポイント数に応じて表彰したり、トップ賞を設けた。またイベント時に着用する図書館オリジナル T シャツのデザインを公募で決めるなど学生へ図書（図書館）に対する興味を喚起、維持させることに努めた。
- ・震災による計画停電のために学生が帰宅を急ぐ傾向があり、また、節電で館内の冷暖房

環境が快適でなかった時期もあって、残念ながら利用者数が減り平成 23 年 4 月～平成 24 年 2 月現在までの学生一人当たりの貸出冊数は 9.3 冊と前年（10.3 冊）には及ばなかった。しかし、雑誌・紀要などの論文利用が増加した事は、CiNii（国立情報学研究所の論文情報 DB）のアクセス件数が 2 月末現在で、前年 1 年間より 7026 回（12%）増えていることから判断できる。同時に「聞蔵（朝日新聞記事全文検索）」に加えて 2011 年に新規購入した「ヨミダス歴史館（読売新聞全文検索/人物 DB）」は教員、学生ともに非常に利用が多い。通常、雑誌や紀要は貸出冊数としてカウントしないが、これらのデータベース利用が増えた背景には教員の課題レポート（需要）に対応した図書館の情報検索ガイダンス（供給）の効果も一因としてあげられる。

資料 3. 2011（H23）年度 学生貸出冊数統計（4 年間の推移）

資料 4. CiNii アクセス件数推移（昨年比）

②改善すべき事項

- ・図書館主催の各種イベントについては、オープンスペース及び各学科掲示ポスター、UP SHOWA、学内放送、図書館 HP 等で案内している。しかし、図書館に足を向ける学生は知っているが、一般的に認知度が低い。平成 20 年度から実施している「学生選書ツアー」がようやく、定着している状態である。学生へ周知、更に参加者を増やす広報の検討が必要である。
- ・デジタル化の業者選定においては、実際に見学するなど時間をかけて検討した。結果、画像処理、今後の公開に向けての移行などが順調に進んだ。しかし、次年度の公開に向けて整備予定していた図書館の「公開方針」は検討中であり、制定までに至らなかった。公開に向けて早急に方針の制定を進める。

3.将来に向けた発展方策(実効性のある計画や手順)

①効果が上がっている事項

- ・貴重資料のデータ入力には資料の正確な把握と同時に、学内外の多くの研究者支援として社会的役割を果たすものとなる。資料によっては、利用に制限を設けることになるが、一般資料と同様に HP から本学蔵書検索で公開する。
- ・貴重資料のデジタル化をさらに推進する。

②改善すべき事項

- ・図書館企画の参加人数を増やすため、案内・周知方法を改善する。
具体的には学生主体とした恒常的な広報活動（図書館ブログなど）を計画、支援する。
- ・HP 上での画像公開に向けて基準となる公開方針を制定する。

4.評定

A

以下の基準に基づいて、各部署の所属長が自己評定を行う(大学基準協会による評定基準)

[注] 評定の欄には、以下の基準を目安に評定を付してください。

- S： 方針に基づいた活動が行われ、理念・目的・教育目標の達成度が極めて高い。
- A： 概ね、方針に基づいた活動が行われ、理念・目的・教育目標もほぼ達成されている。
- B： 方針に基づいた活動や目的・教育目標の達成がやや不十分である。
- C： 方針に基づいた活動や理念・目的・教育目標の達成が不十分であり、改善すべき点が多い。

2011 年度「社会連携・社会貢献」

部署：学長室

【到達目標】(数値や到達時期など具体的な計画)

- ・社会との連携・協力に関する方針をとりまとめる。
- ・世田谷区、本学設立の NPO を通じた地域貢献、教育研究の成果を基とした社会へのサービス活動を計画し、進めていく。
- ・国際協力担当、英語コミュニケーション学科、国際学科等とも連携しながら、講演会等を実施することで、国際交流事業を進めていく。
- ・共同研究、委託研究等企業との連携を 2010 年度よりも増やしていく。

1.現状の説明(データ等に基づく客観的現況)

■社会との連携・協力に関する方針を定めているか。

(産・学・官との連携の方針の明示。地域社会・国際社会への協力方針の明示)

長期計画において NPO 法人(NPO 昭和)と連携した、子育て支援活動を中心とした地域貢献を行うことを明示している。

また、将来構想では「在学生、父母、卒業生、退職した教職員を含めた強固な『昭和学園コミュニティ』を作り上げ、昭和学園の持続的発展を支える基盤とする。地域社会との関わりを重視し、社会に開かれたコミュニティを形成する」ことを掲げている。

■教育研究の成果を適切に社会に還元しているか。

(教育研究の成果を基とした社会へのサービス活動。学外組織との連携協力による教育研究の推進。地域交流・国際交流事業への積極的参加)

2011 年度、本学では下記のような活動によって社会に対して教育研究の成果の還元を実施した。

- 10 月 8 日に今年で 6 回目となる「三茶子育てファミリーフェスタ in 昭和女子大学」を NPO 昭和と共同で開催し、地域の子育て支援活動を実施し、各学科コーナー 192 名、全体運営 76 名の学生が携わった。
- 昭和西川株式会社による寄附講座として、「SSC 昭和西川株式会社／昭和女子大学共同研究 寄附講座」を開設した。環境デザイン学科の学生が中心となってマーケティング、商品開発等を行い、展示会で発表した。
- 女性文化研究所による「女性学公開講座」で女性を対象にしたキャリアビジョンを考える「キャリアビジョンをまず描こう！！ V I」を 11 月 24 日に開催し一般公開した。

- 社会人女性の再就職、起業を支援する「ママチャレ ブラッシュアップキャリア塾」を9月から約半年の期間開催し、21名の方が受講した。
- 日本人街で知られるベトナム・ホイアンの街並み保存に協力してきた国際文化研究所主催で9月13日に「世界遺産ホイアン国際観光シンポジウム」を開催した。
(後援：文化庁 ベトナム大使館 国際交流基金 JICA 日本アセアンセンター JATA ベトナム航空)
- 第二言語習得研究の第一人者、ニュージーランドのオークランド国立大学教授・本学客員教授 エリス・ロデリック氏による「Language Teaching Research and Language Pedagogy (集中講義)」を一般公開した。
- 高校生を対象とした昭和女子大学児童文学賞(今年で3回目)を主催している。最優秀賞は福田麻友子「セミと私の一週間」(都立文京高等学校3年)、優秀賞は市岡みずき「星の声」(都立西高等学校3年)、佐藤希美「おやすみの前に」(桜蔭高等学校1年)。
- 昭和女子大学人見杯英語スピーチコンテスト(今年で15回目)を主催している。
- 男女共同参画社会形成の推進あるいは女性文化研究の発展に寄与する研究を対象とした昭和女子大学女性文化研究賞(坂東眞理子基金)を主催している。
- 立命館大学や大学コンソーシアム京都と協定を結び、当該大学の学生が昭和ボストンの留学プログラムに参加することができるようになっている。本学学生と他大学学生が共同でボストンの本学キャンパスや周辺大学で学ぶことによって教育研究の相乗効果が高まっている。
- 生活心理研究所は公開講座「青年後期のこころを支える」を開催し、一般公開した。
- 生活心理研究所は心理臨床相談室を開設し主に女性を対象としたカウンセリング活動を行っている。
- 社会人を対象とした生涯学習機関「オープンカレッジ」を法人部門に設置している。
- 本学が設立したNPO法人「NPO 昭和」は親子が集まって楽しいひとときを過ごすための憩いの場「おでかけひろば SHIP」を開設している。初等教育学科を中心とした本学学生がボランティアで子育て支援を行っている。
- 2011年度は委託研究3件、共同研究4件、研究助成5件、奨学寄付金2件、寄附講座2件であった。2010年度は委託研究4件、共同研究2件、研究助成7件、奨学寄付金2件、寄附講座2件であり、前年度とほぼ変わらない水準である。
- 292人の社会人女性をメンターとして登録し、学生の相談に応じる体制を整備した。また、複数のメンターと交流するメンターカフェを開催し、学生にメンター活用法を周知した。その結果、今年度延べ127人の学生がメンターの面談・指導を受けた。

2.点検・評価(点検は現状と到達目標の照合、評価とは現状に対するデータに基づいた評価)

①効果が上がっている事項

学生が中心となって学外機関と協働して活躍する機会が多くなっている。

社会人女性を支援するためのプログラムが前回(2009 年度)よりも増えており、その内容も充実している。

国際交流に関する活動も増えてきており、昭和ボストンを十分に活用できている。

メンター制度の創設によって、1、2年生は就業に関する意識を高め、3、4年生は将来を見据えて就職活動に臨む意欲を向上させることにつながった。

②改善すべき事項

社会との連携・協力に関する方針が明確には定められていない。

社会との連携・協力に関する事務部門、教員組織が複数にまたがっており、情報を共有する仕組みが整っていない。

3.将来に向けた発展方策(実効性のある計画や手順)

①効果が上がっている事項

学生と学外機関が協働して活動する機会をさらに増やしていく。

昭和ボストンを拠点とした国際交流活動を進めていく。

メンター制度を拡張し、より多くの学生が参加しやすくするため、メンターフェアのような参加自由な集いを実施していく。

②改善すべき事項

社会との連携・協力に関する方針を明文化し、掲げる。

事務改革の中で、社会との連携・協力に関する事務部門を定めていく。

4.評定

A

以下の基準に基づいて、各部署の所属長が自己評定を行う(大学基準協会による評定基準)

[注] 評定の欄には、以下の基準を目安に評定を付してください。

S： 方針に基づいた活動が行われ、理念・目的・教育目標の達成度が極めて高い。

A： 概ね、方針に基づいた活動が行われ、理念・目的・教育目標もほぼ達成されている。

B： 方針に基づいた活動や目的・教育目標の達成がやや不十分である。

C： 方針に基づいた活動や理念・目的・教育目標の達成が不十分であり、改善すべき点が多い。

2010 年度「学生の受け入れ」改善報告

2010 年度に実施した学生の受け入れに関する自己点検・評価の結果、改善すべき事項として以下の事項が挙げられた。

- 大学の情報公開に合わせ、全入試の入試結果、入試毎の入学者数を公開する。
- 大学・短大の一般入試の入学者管理について、本年度効果があった手順ならびに改善すべきポイントを再チェックし、次年度の入試用に再構築する。
- 地方会場試験の問題郵送のリスク回避を目指す。
- 学生募集業務、入試実施業務を適正に行うため、事務職員、教員の業務を把握し、業務体制を再構築する。また、入試実施において教職員の負担軽減とリスクを回避するため、従来の実施方法を見直すとともに、アウトソーシングも含めた新たな実施方法を計画する。

本来であれば 2011 年度、再度自己点検・評価を実施すべき事項であるが、自己点検・評価実施委員会で承認された 6 月時点で、すでにすべての項目において改善が図られていることが明らかであったため、再評価は不要ということになった。

この自己点検・評価結果は、2012年7月12日(木)に開催された自己点検・評価実施委員会で承認されました。

自己点検・評価実施委員会メンバー

委員長 坂東 眞理子(学 長)
金子 朝子 (副学長 自己点検・評価実施小委員長)
小原 奈津子(副学長 自己点検・評価実施小委員長)
岸田 依子 (文学研究科長)
森高 初恵 (生活機構研究科長)
山本 暉久 (人間文化学部長)
志摩 園子 (人間社会学部長)
芦川 智 (生活科学部長)
太田 鈴子 (短期大学部長)
江中 里子 (総合教育センター長)
吉田 昌志 (教務部長)
猪熊 雄治 (学生部長)
金尾 朗 (アドミッション部長 アドミッションセンター長)
増澤 史子 (キャリア支援部長)
畑原 寿俊 (学長室長)
福住 真由美(教育支援センター長)
武藤 空男 (キャリア支援センター長)

以上

昭和女子大学